

株式会社電通国際情報サービス  
シビラ株式会社  
仏バルドワーズ県経済開発委員会

## 消費の未来を変える、世界初の「エシカル消費」実証実験をフランスで実施

～消費行動を SDGs17 ゴールに関連付けて可視化、トークンエコノミーの実現性を実証～

株式会社電通国際情報サービス(本社:東京都港区、代表取締役社長: 名和亮一、以下 ISID)のオープンイノベーションラボ(以下イノラボ)、シビラ株式会社(本社:大阪市西区、代表取締役:藤井 隆嗣、以下シビラ)、仏バルドワーズ県経済開発委員会(委員長:フィリップ・スール、以下 CEEVO)の3者は、ブロックチェーン関連技術によりエシカル(倫理的)な消費<sup>※1</sup> 行動を SDGs<sup>※2</sup> の17ゴールに関連付けて可視化し、新しい価値基準に基づく経済圏の実現可能性を実証する実験を、5月8日(水)よりフランス・パリで実施します。

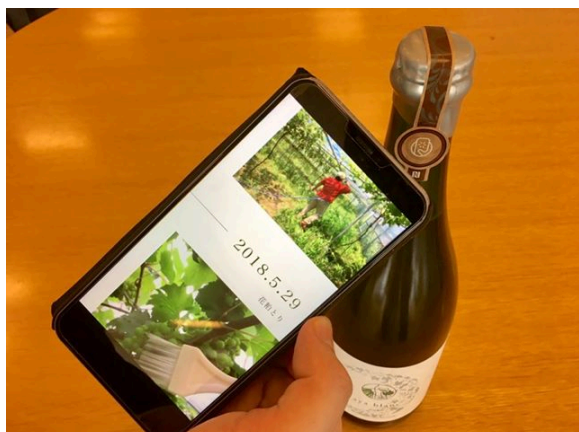


本実証実験では、イノラボとシビラが共同開発中の「トークンエコノミープロトコル<sup>※3</sup>」の実装により、汎用プロトコルから非中央集権的にトークンを付与する仕組みを世界で初めて実現しています(ISID 調べ)。また「エシカル消費」を促す情報流通の仕組みとしても、世界初の事例となります(同)。なおフランスの食文化に関する知見提供や ICT を用いた実験デザインの店舗適用に関しては、CEEVO のほか“Master Chef of French Cuisine”(フランス料理マスターシェフ)称号を有する仏フェランディ調理学校のジョエル・ボワロー副学長らが協力します。

**期間:**2019年5月8日(水)～10日(金)      **場所:**レストラン「ゼブラ」(フランス・パリ市)

<実験のポイント>

- ① エシカル消費が根付くフランスの一流レストランで実施
- ② 宮崎県綾町の完全無農薬・植物性堆肥にこだわった有機ワインを空輸・提供
- ③ 価格や味ではなく、徹底的に環境に配慮した生産哲学を来店客に訴求
- ④ 来店客の注文行動を、SDGs17 ゴールに関連付けて可視化
- ⑤ トークンエコノミープロトコルを実装し、汎用プロトコルからトークンを付与する仕組みを世界で初めて実現
- ⑥ NFC 対応ハードウェアウォレット<sup>※4</sup>によるゲーム感覚の UX で利用者の心理的障壁を低減



ブロックチェーンにより生産・流通のトレーサビリティが保証された綾町香月ワインズの有機ワイン。実証実験のために50本限定でフランスに空輸される。



SDGs17 ゴールに関連付けられた NFC 対応ハードウェアウォレットと個人のエシカル消費履歴を可視化した Dapps(アプリケーション)の画面イメージ。

## ■実験の社会的意義■

商品やサービスを選ぶ際に、社会や環境に配慮しているかどうかを重視する「エシカル消費」は、新しい消費のかたちとして世界的に関心を集め、特に欧州を中心に広がりを見せています。環境への意識や弱者への配慮が文化的に根付くフランスや英国では、エシカルコンシューマーと呼ばれる消費者コミュニティが複数形成され、「他者のための消費」「未来のための消費」という価値観のもと、商品選定における多様な価値基準が存在しているとされます。

しかし、そのような新しい消費者が求める商品情報は、価格や素材、品質といった従来の指標では表現できず、例えば「環境への配慮度」や「動物虐待防止策の整備状況」、あるいは「どのような生産哲学で作られたか」といった情報を、信頼しうる形で消費者に届ける仕組みが必要になります。また、こうした新しい消費者コミュニティにおいては、個々人のエシカルな消費行動自体が地球環境への貢献と捉えられ、その人への信頼や評価につながるという側面を持ちます。

本実証実験は、こうした多様な価値基準に基づく消費のサプライチェーンをテクノロジーの活用により可視化し、エシカル消費の喚起・促進につなげようという、世界でも類を見ない試みです。

## ■実験の素材と舞台■

本実験には、完全無農薬・植物性堆肥にこだわったワイナリーを営む宮崎県綾町の香月ワインズが全面的に協力し、土作りから葡萄の作付け・収穫・醸造・加工・出荷・輸送まで、すべての履歴がブロックチェーンに記録された 50 本の有機ワインが実験のために空輸されます。舞台となるのは、世界一のワイン大国であり、古くから有機ワインの生産も盛んなフランス。日本から持ち込んだワインが「無農薬であること」は付加価値にならず、「味」も評価の対象にはなりません。

こうした中で、自然生態系への負荷を極限まで低減したワイン作りにこだわる香月ワインズの生産哲学を、いかに分かりやすく訴求し注文行動につなげられるか、さらにその行動が注文客自身の評価に還元されるという新しいユーザー体験を創出できるかが、本実験の焦点となります。

## ■技術面の革新性■

イノラボとシビラは、2016 年より宮崎県綾町と共同で、ブロックチェーンを活用して有機農産物の生産・流通履歴を記録・可視化するトレーサビリティ・システムの構築に取り組み、実証を重ねてきました。今回はこのシステムに加え、SDGs の 17 ゴールにちなんで擬人化した 17 種類の NFC 対応ハードウェアウォレットを用意します。来店客は、ゲーム感覚の演出を通じて、香月ワインを注文すればゴール 13(気候変動)やゴール 15(陸の生物多様性)などに貢献できることをひと目で理解し、注文によるエシカルな貢献を証明するトークンを簡単に取得することができます。

さらに最も革新的なのは、イノラボとシビラがこれまでの実証実験を通じて開発を進めてきたトークンエコノミープロトコルを今回初めて実装し、汎用プロトコルからトークンを付与する仕組みを構築している点です。これにより、従来の常識や通念では評価できない新しい価値がトークンとして定義され、一切の恣意や歪曲なく正当に評価され流通する「トークンエコノミー」の概念を、物理的に実現しうるかが実証されることとなります。なお実証実験による売り上げは全てノートルダム大聖堂再建のために寄付されます。

- ※1 エシカル(倫理的)な消費: 環境や人体への負荷、社会への貢献などを重視して生産された商品やサービスを選択的に消費する行動や理念を指す。
- ※2 SDGs: Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための 17 のゴールと 169 のターゲットから構成される。
- ※3 トークンエコノミープロトコル: ブロックチェーン上で定義されるすべての資産やデータ、すなわちトークンが、個人の価値観に基づく権利行使の手段として成り立つ「トークンエコノミー」を実現するために必要となる、汎用的なミドルウェアプロトコルを指す。汎用プロトコルが提供されることにより、同一のブロックチェーン環境下で様々なアプリケーションが相互にサービス連携できるようになる。
- ※4 NFC 対応ハードウェアウォレット: ユーザーの秘密鍵を非接触 IC 端末に保存し、NFC 対応のモバイルデバイスから読み込むことで迅速なトランザクションの署名を確保する仕組みを実装したウォレット。本実証実験では SDGs17 ゴールに関連付けられたトークンを管理するウォレットとして利用。

### 【実証実験に関するお問い合わせ先】

株式会社電通国際情報サービス 2020 テクノロジー&ビジネス開発室 オープンイノベーションラボ 鈴木

TEL: 03-6713-6098

E-Mail: info@innolab.jp

### 【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社電通国際情報サービス コーポレートコミュニケーション部 李

TEL: 03-6713-6100

E-Mail: g-pr@isid.co.jp

## <ご参考資料>

### 関連プレスリリース

ISID、ブロックチェーンで農産物の生産・流通・消費履歴を保証するトレーサビリティ実証実験を開始  
～宮崎県綾町と都内レストランを結ぶ「エシカル消費」の真正性を担保～（2018年5月17日）

<https://www.isid.co.jp/news/release/2018/0517.html>

有機農業発祥の町、宮崎県綾町の野菜にブロックチェーン技術で管理した生産情報を付与、販売  
～3月25日(土)にアークヒルズで開催する「ヒルズマルシェ」に出店～（2017年3月22日）

[https://www.isid.co.jp/news/release/2017/0322\\_1.html](https://www.isid.co.jp/news/release/2017/0322_1.html)

ISID、ガードタイム、シビラ、ブロックチェーン技術を活用して地方創生を支援する研究プロジェクトを立ち上げ  
～第1弾として、宮崎県綾町の有機農産品の安全を消費者にアピールする仕組み作り～（2016年10月19日）

<https://www.isid.co.jp/news/release/2016/1019.html>

### トークンエコノミープロトコルについて

トークンエコノミープロトコル(TEP)は、ブロックチェーン上で定義されるすべての資産やデータ、すなわちトークンが、個人の価値観に基づく権利行使の手段として成り立つ「トークンエコノミー」を実現するために必要となる、汎用的なミドルウェアプロトコルを指し、汎用プロトコルが提供されることで、同一のブロックチェーン環境下で様々なアプリケーションが相互にサービス連携できるようになります。フェアで改ざん不可能な、世界共通のトークンエコノミー規格に基づきトークンの発行や流通がなされる非中央集権型のトークンエコノミーが実現することで、既存の資本主義経済とは異なる特定の理念や価値感に基づき価値が評価される新しい経済圏が誕生すると言われていています。



ブロックチェーン層とアプリケーション層の中間に位置づけられる TEP(トークンエコノミープロトコル) の概念図 (シビラ提供)

### オープンイノベーションラボについて

ISID が 2011 年 4 月に設置したオープンイノベーション研究所(現オープンイノベーションラボ)は、様々な先端技術の実用化に向けて、企業や教育機関などと協働し、技術研究やサービス開発に取り組んでいます。2015 年からは、新設組織「2020 テクノロジー&ビジネス開発室」の中核として、「街づくり」「観光」「映像」など、都市計画やエンタテインメントに関連する領域を中心に、2020 年とそれ以降に向けた新たなソリューションの創出に取り組んでいます。<http://innolab.jp>

### シビラ株式会社について

先進的なブロックチェーンの研究開発およびソリューションを提供する日本発のベンチャー企業です。当プロジェクトにおいては、ブロックチェーンに関する技術及び知見を提供します。<https://sivira.co/index-ja.html>

### 仏バルドワーズ県経済開発委員会(CEEVO:Le Comité d'Expansion Économique du Val d'Oise)について

仏バルドワーズ県経済振興委員会(CEEVO)は、イル・ド・フランス地域圏のパリ経済圏における経済開発のための機関です。域内経済圏の魅力向上を図るべく、セルジュー(本社)、パリ(シャルル・ド・ゴール空港事務所)、大阪等に拠点事務所を構えています。当プロジェクトにおいては、フランス食文化に関する知見に加えてフランスへのワイン輸送手段の提供やパリ市内レストラン等、関係先との調整を担います。

<https://www.ceevo95.fr/>

\* 本リリースに記載された会社名・商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。